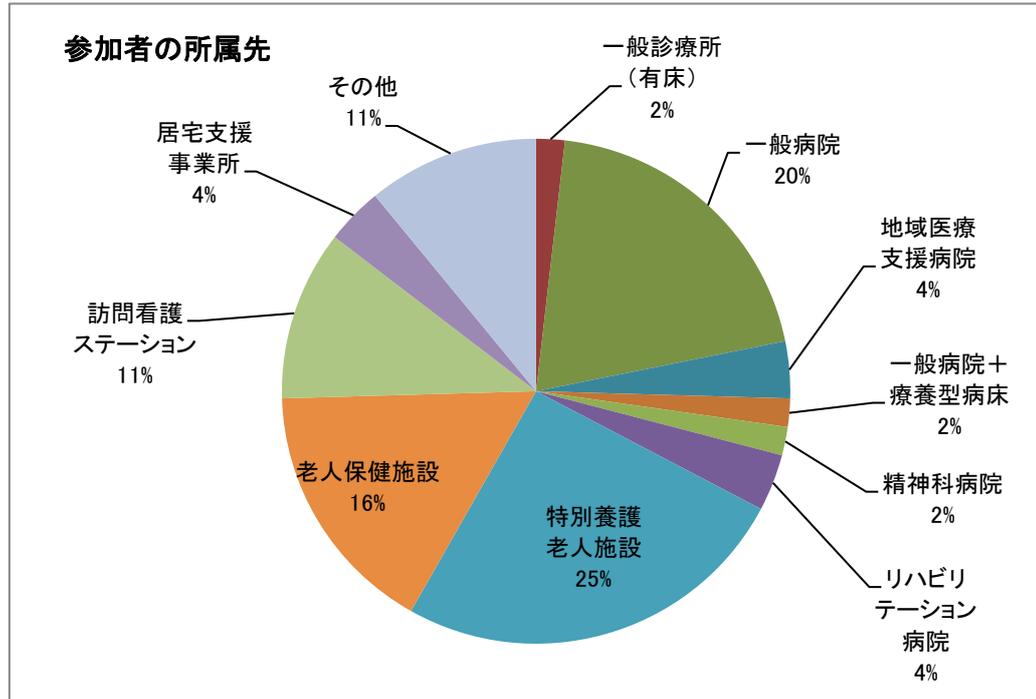


## 第2回鳥取地区PDNセミナー・アンケート結果

平成21年10月25日  
(サンプル数55)

### I. 参加者のプロフィール

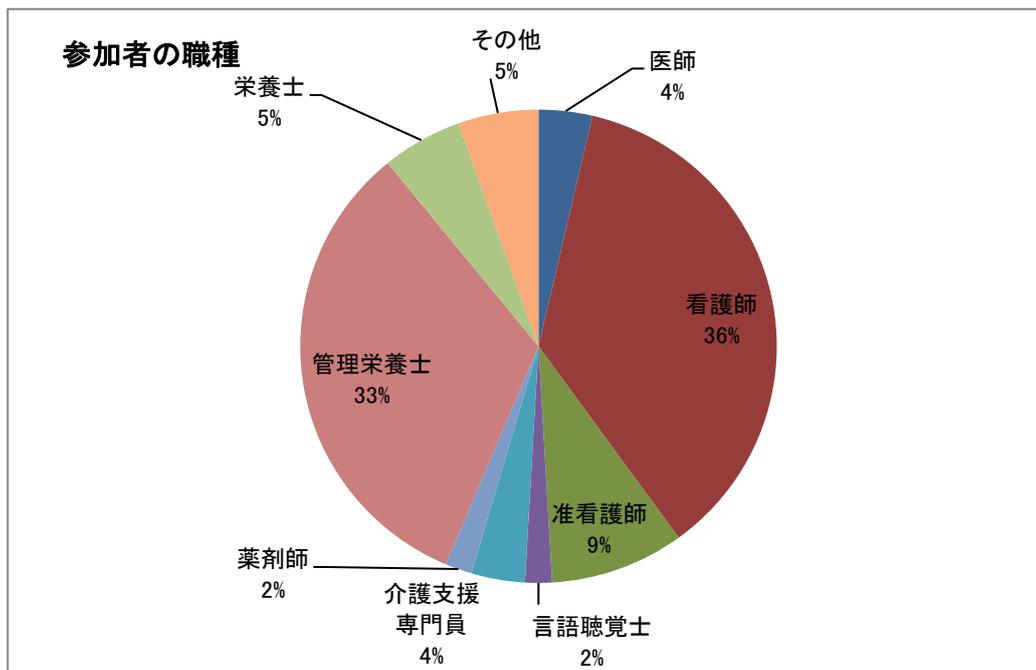
#### ■参加者の所属先



その他：デイサービス、通所介護地域包括支援センター、一般診療所+デイケア、一般診療所(有床)+老人保健施設

N=55

#### ■参加者の職種



その他：保健師、臨床検査技師、マッサージ師

N=55

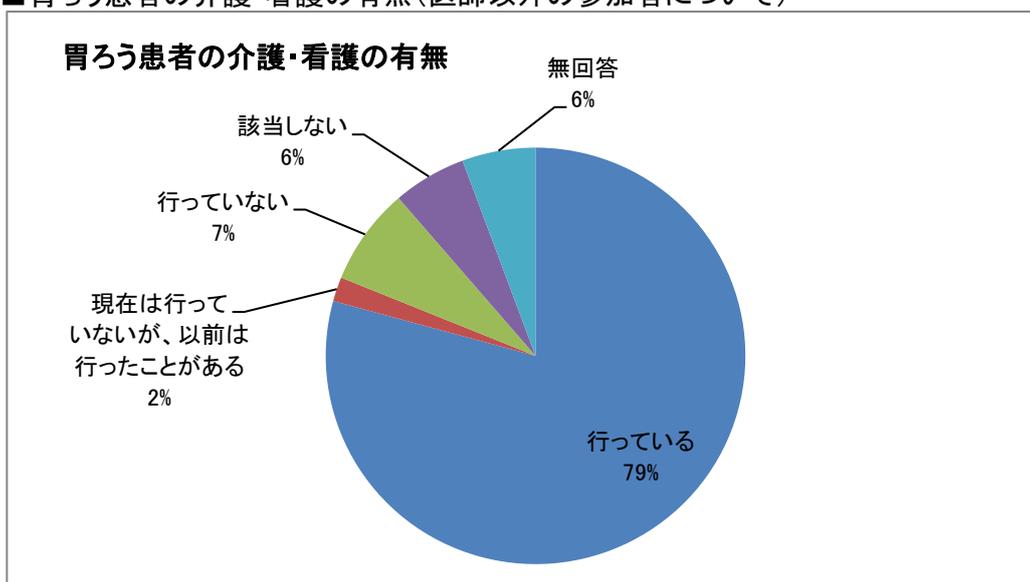
■ 所属先の所在地

N=55

市、郡	米子市	鳥取市	西伯郡	松江市	境港市	東伯郡	倉吉市
人数	21	7	7	5	4	3	2
%	38%	13%	13%	9%	7%	5%	4%

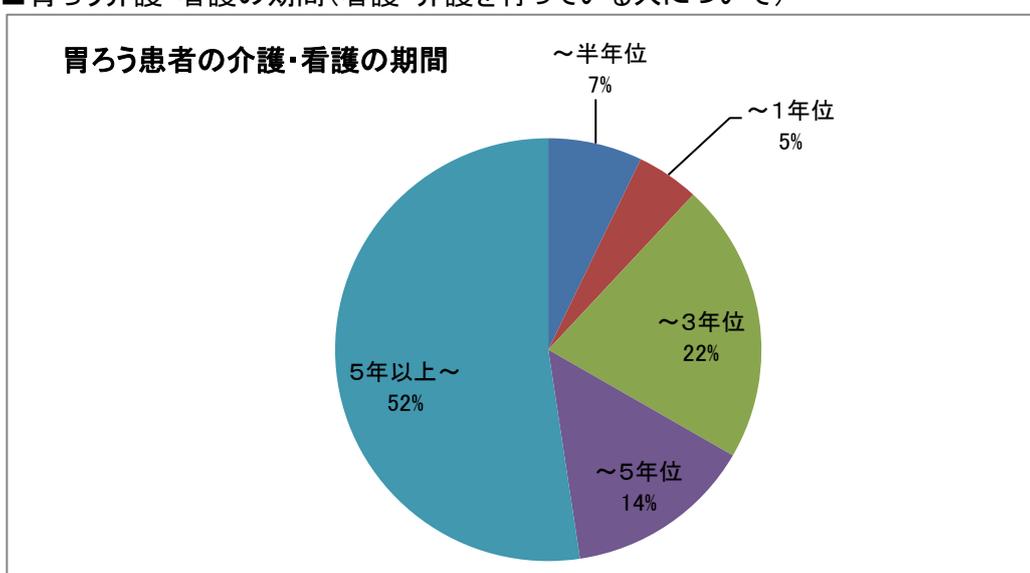
安来市	島根市	日野郡	無記入	合計
1	1	1	3	55
2%	2%	2%	5%	

■ 胃ろう患者の介護・看護の有無(医師以外の参加者について)



N=42

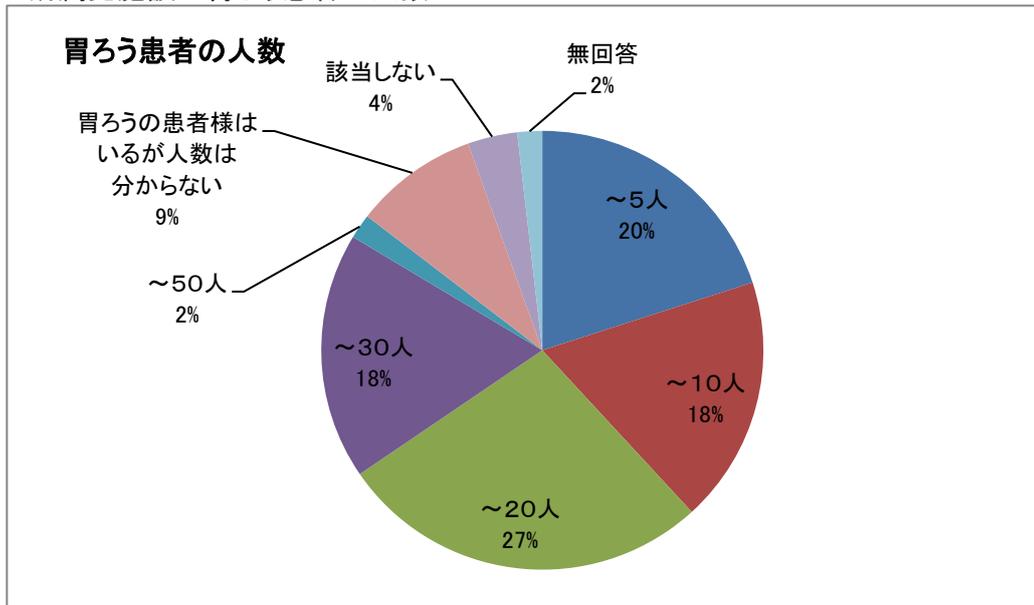
■ 胃ろう介護・看護の期間(看護・介護を行っている人について)



N=42

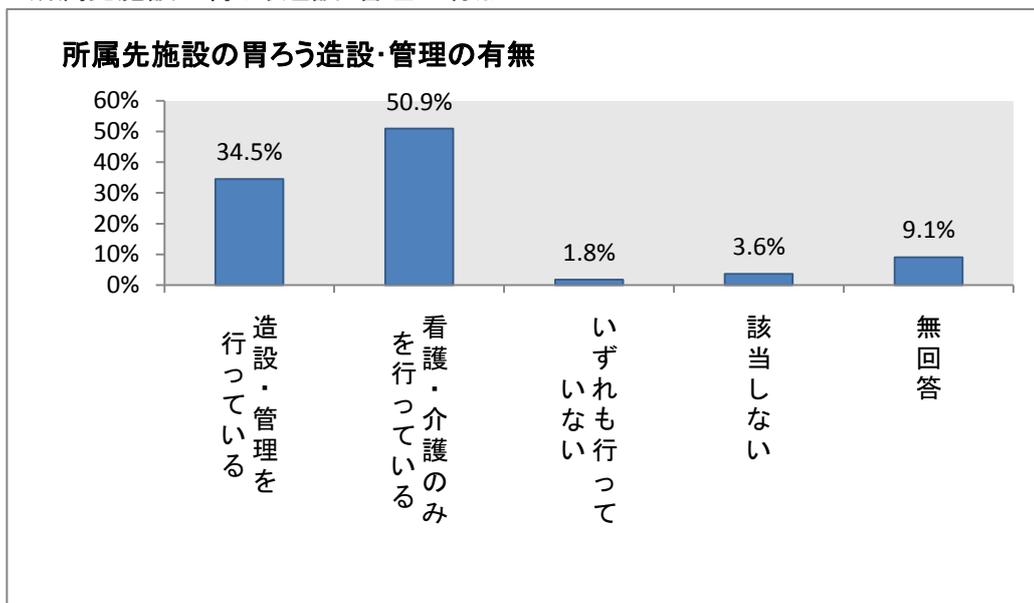
## II. 所属先施設の胃ろうの現状

### ■ 所属先施設の胃ろう患者の人数



N=55

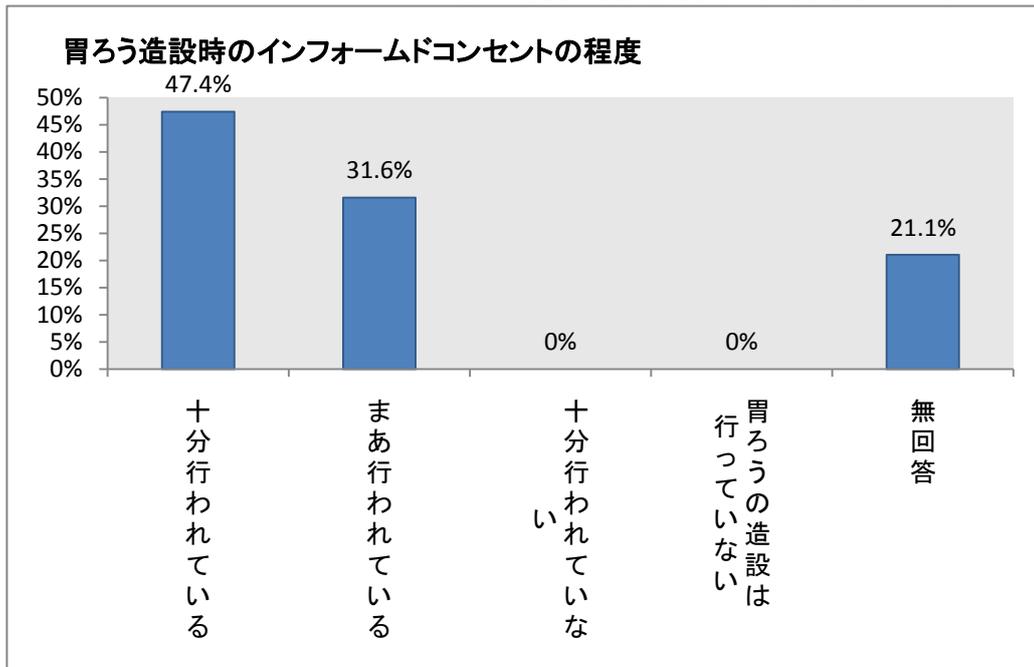
### ■ 所属先施設の胃ろう造設・管理の有無



N=55

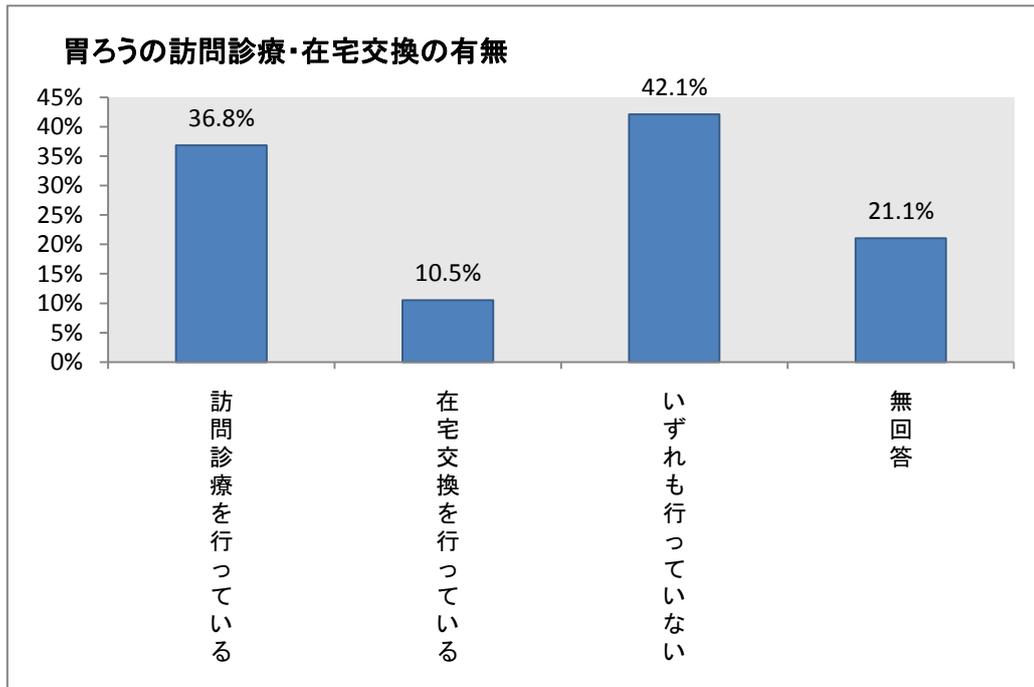
■ 胃ろう造設時のインフォームドコンセントの程度

(所属先が胃ろうの造設・管理を行っている参加者について)



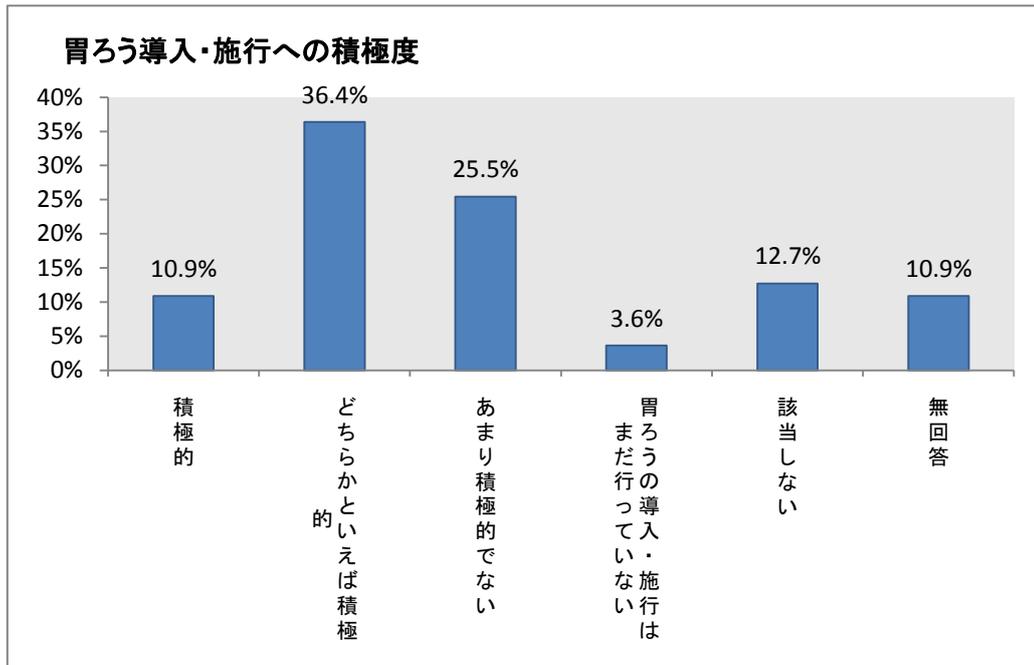
N=19

■ 所属先施設の胃ろうの訪問診療・在宅交換の有無



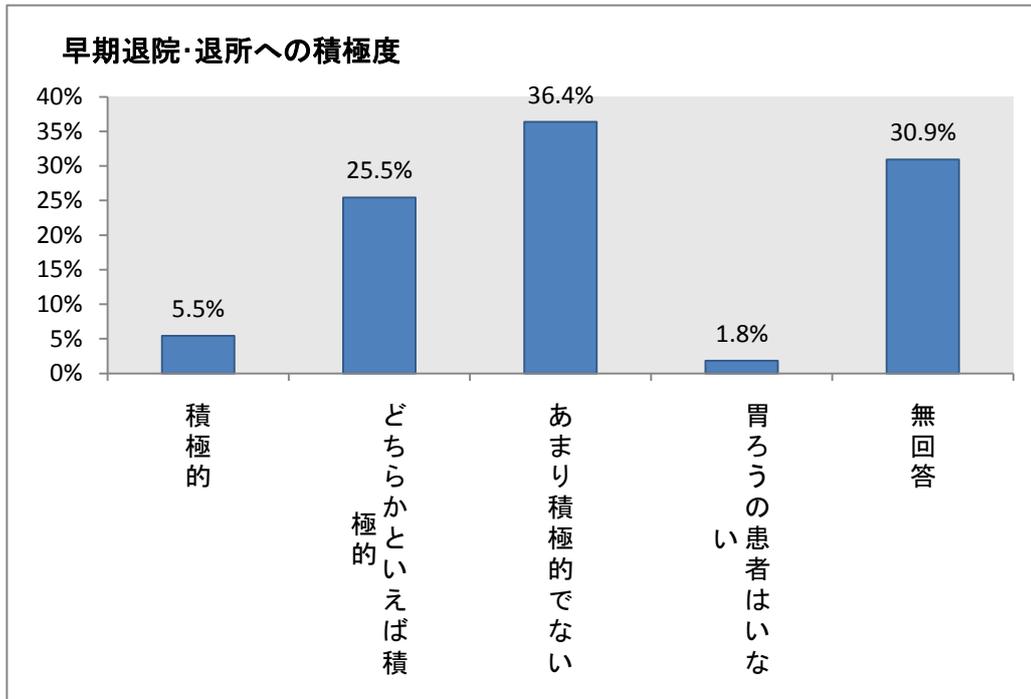
N=19

■所属先施設の胃ろう導入・施行への積極度



N=55

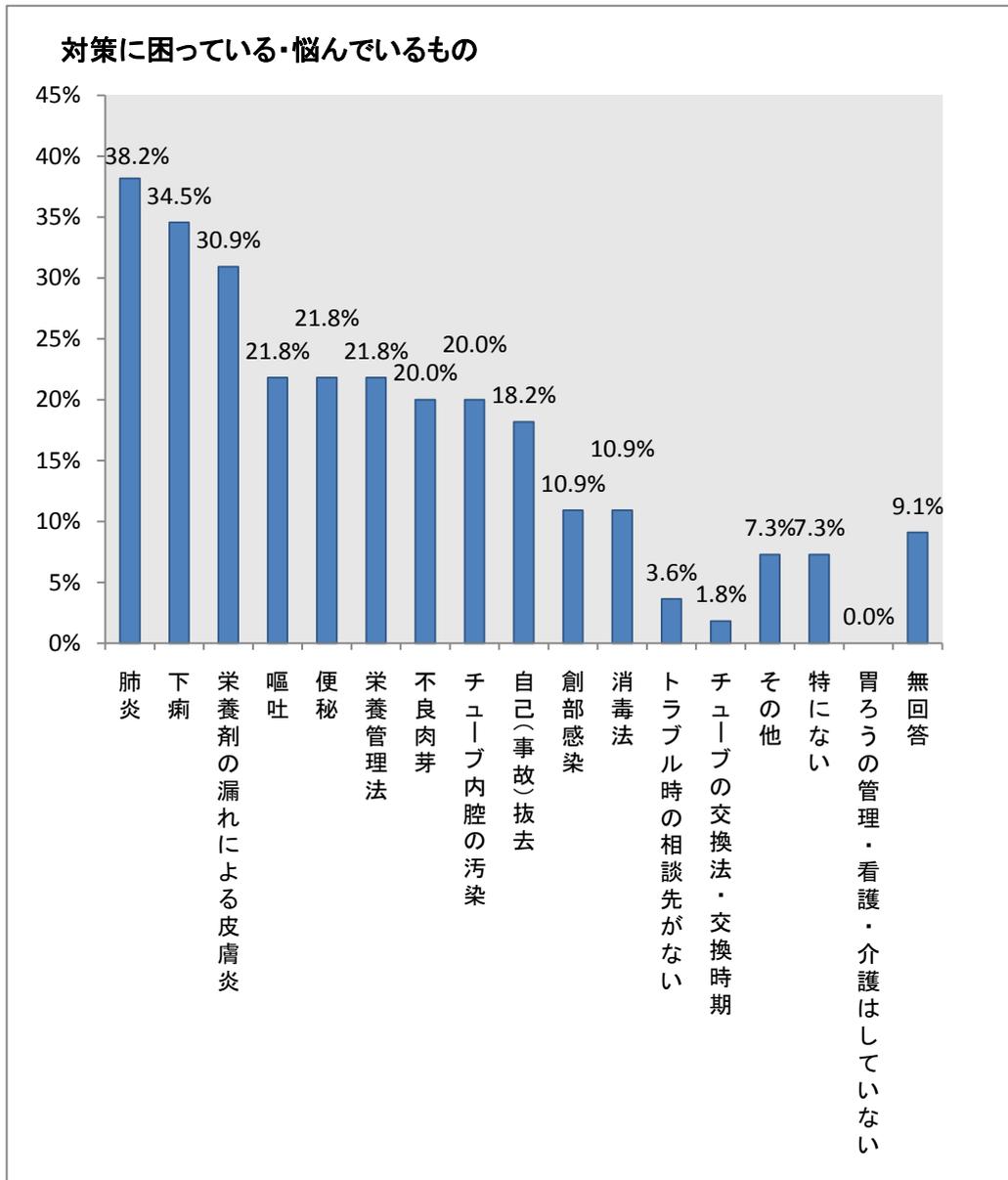
■所属先施設の早期退院・退所への積極度



N=55

Ⅲ. 胃ろうの管理・看護・介護の中で、対策に困っている・悩んでいるもの(複数回答可)

■ 対策に困っている・悩んでいるもの



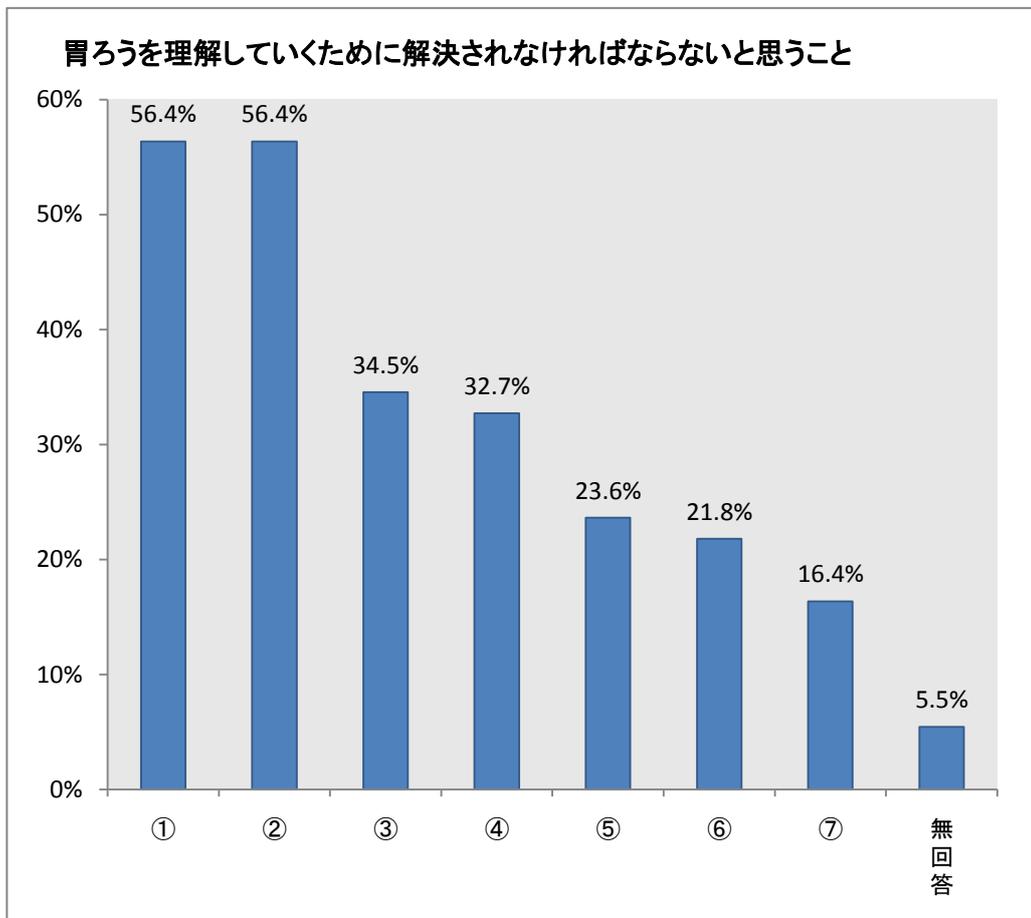
N=55

その他: 湿疹ができたりしてアレルギーの方の栄養剤  
 注入用ボトル・チューブの衛生管理にかける手間  
 円背の方の管理が難しい。ちょうど曲がっているところに造設してある方あり。(逆流・嘔吐あり)  
 注入が医療行為で高齢者世帯等は胃ろうになると在宅生活が介護保険制度ではささえきれない。

IV. 胃ろうをもっと理解していくために、解決されなければならないと思うこと。

(3つだけあげてもらった複数回答)

■ 胃ろうを理解していくために解決されなければならないと思うこと



N=55

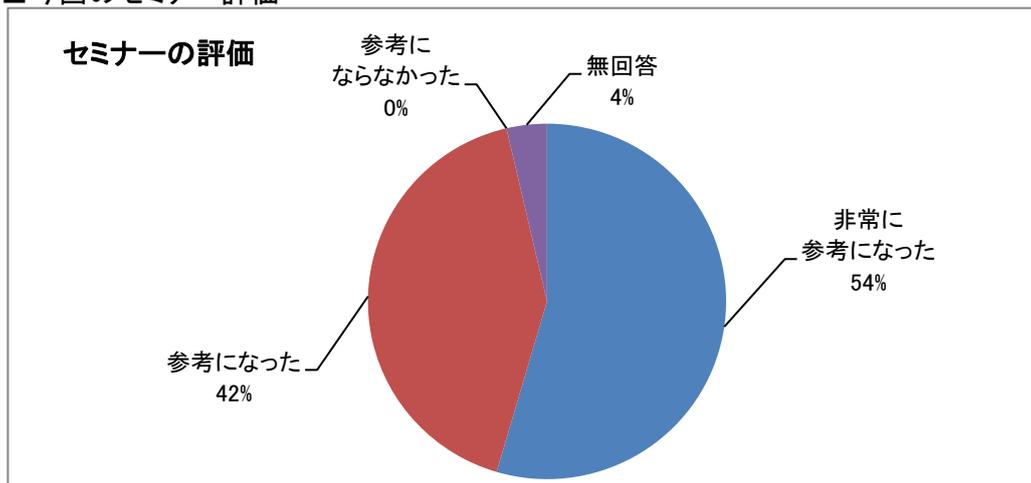
①	胃ろうについての勉強会の充実。(胃ろうの栄養・嚥下についての知識の向上、NSTや在宅管理についての勉強会など)	56.4%
②	食べられなくなれば即胃ろうというのではなく、胃ろう本来の「役割」をいま一度考え直してみること。	56.4%
③	造設、管理、看護、介護の全般にわたる院内連携や地域連携の確立。	34.5%
④	一般の人々や病院関係者に正しい理解を持ってもらうためのPR活動の充実	32.7%
⑤	胃ろうの手技・管理の標準化。(手技の安全かつ確実な施行、合併症の発生予防、発生後の対処方法、術後ケアなどの標準化)	23.6%
⑥	胃ろうの適応、危険度を示す疾患・状態別のガイドラインの作成。	21.8%
⑦	専門医や専門看護師の育成。(造設医の資格化、トラブルに対応できる専門機関の設立、コメディカルの育成など)	16.4%

無回答

5.5%

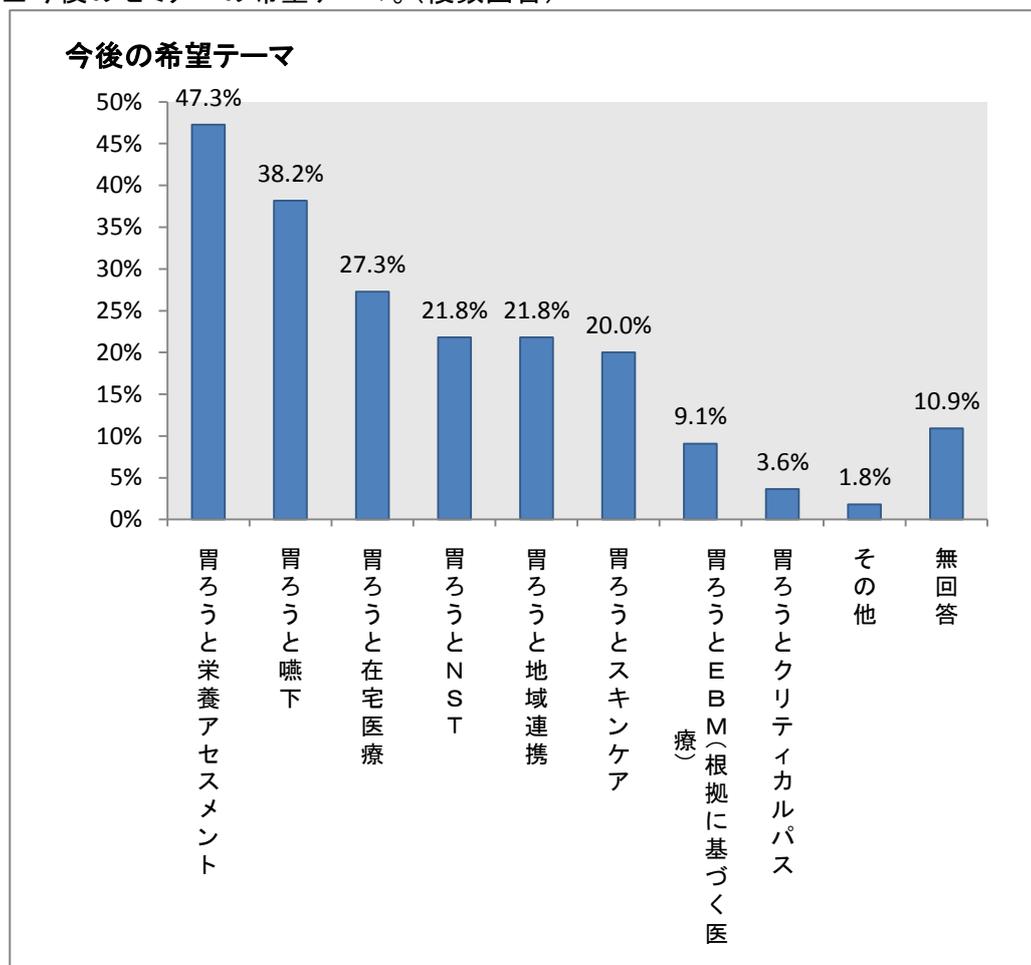
## V. 今回のセミナーの評価と、今後のセミナーの希望テーマ

### ■ 今回のセミナー評価



N=55

### ■ 今後のセミナーの希望テーマ。(複数回答)

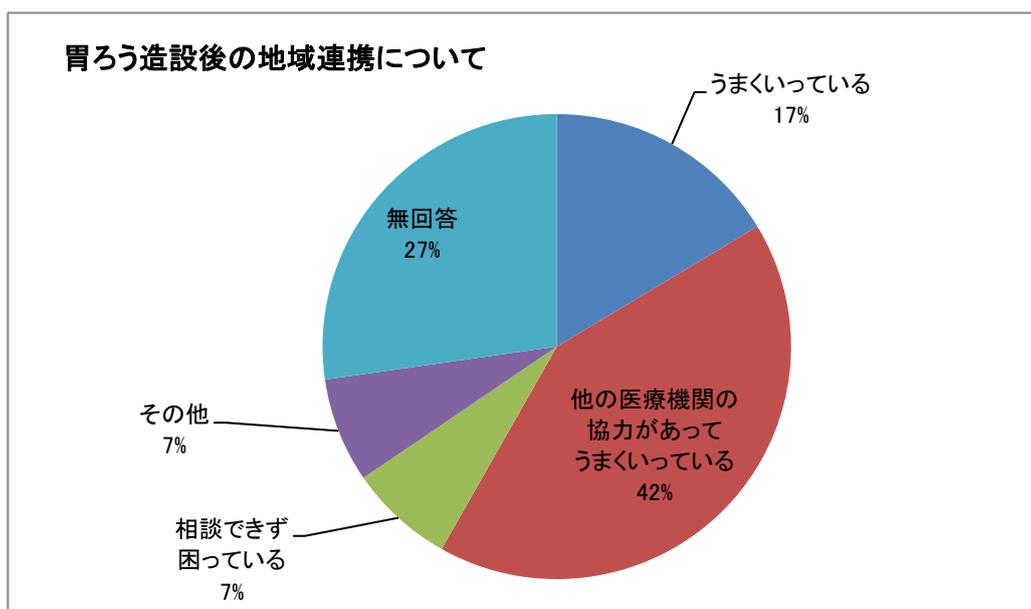


N=55

その他: 胃ろうの管理

## VI. 地域連携について

### ■ 胃ろう造設後の地域連携について



N=55

その他：分からない。

家族の理解が乏しいところがあり、その点でつまづいている方があり。

造設後に家族が介護できなくなって、施設入所を希望されたりすることがあるが、胃ろうを引き受けしてくれる施設が少ない。

## VII. 自由回答意見

問. 胃ろうの理解やPDNセミナーについて、どのようなことでも結構です。

忌憚のないご意見をお聞かせください。

- ・ また参加してみたい。
- ・ もっとPEGについて情報交換をして欲しい。
- ・ 今も何が答えか出ていない問題が多くあり、全ての関係者が患者様の人生中心に努力しているともっと広く知られると良いと思いました。
- ・ とても興味深い講演をありがとうございました。在宅で家族が安心して介護できるための方法をみんなで造っていけるよう支援をお願いしたいと考えます。
- ・ 栄養に関して、資料を頂きました。高齢の方(80歳以上)に対しての考え方は、どんなものかなあ。
- ・ スライドの地色が、緑に黒や赤で字が書いてあると見えにくいと思います。一考願います。全部に資料があると良かったと思います。
- ・ 胃ろうについて良く分かりました。  
山本先生→動画・図があり、造設の仕組みが良く分かりました。  
藤原先生→胃瘻のことにに関して栄養士の立場から詳しく理解され、勉強されていると感じました。  
河本先生→動画・図で大変良く分かりましたし、鳥大HPで手術があることや出来ることを初めて知りました。座位保持、食べられる体作りも確かだと思いました。
- ・ 大学の河本先生の話にはとても興味をもちました(在宅で訪問看護していますが)。痰量の多い人はたくさんあって、気切、胃ろう、経鼻栄養などしていますが、家族介護者も負担がどうしたら軽減できるか、手術にも色々制約があるようなので、どうしたら良いかかと思っています。
- ・ 胃ろうを造って、家族が介護ができなくなり、施設探しをするのが現状です。延命の意味をきちんと考えないといけない時代がやってくるのではないかと思います。
- ・ 今までこういう時はどうしたらいいのだろうと思ってても、なかなか相談するところがなく困っていたのですが、今日の先生方のお話を聞かせていただいても参考になりました。またこのような機会を設けていただけるとありがたいです。ありがとうございました。
- ・ 施設では、非常勤ドクターと関わることなく、PEGのご利用者で体重減少や栄養状態(Alb値)の低下が進んでいてもどうすることも出来ない状態です。注入するもののメーカーは注入を行うナースが決めており、胃ろう患者全て同じものを使用しています。そういうことから栄養アセスメントについても教えてもらえると助かります。
- ・ 胃ろう管理・注入が医療行為として位置付けられており、介護が高齢であり、管理出来ない場合、今の介護保険制度では支援し切れない。ヘルパーでもOKの制度になれば良い。訪問介護だけでは単価が高いため難しい。在宅での胃ろう管理も増えてきているがまだまだ特別なもの、在宅で介護するのは難しいと感じている関係者が多いのが現実。開業医さんも嫌がられるケースでもあり、在宅の関係者(デイサービス、ヘルパー、ケアマネ、訪問リハetc)の理解が必要だと思っている。

## 第2回鳥取地区PDNセミナーアンケート

回収サンプル数：55

回答番号：回答内容：実数

Q1. あなたの所属先は？（ひとつだけ）

(1)一般診療所（無床）：0(2)一般診療所（有床）：1(3)一般病院：11(4)特定機能病院：0(5)地域医療支援病院：2(6)一般病院＋療養型病床：1(7)療養型病床：0(8)脳神経外科病院：0(9)精神科病院：1(10)リハビリテーション病院：2(11)特別養護老人施設：14(12)老人保健施設：9(13)有料老人施設：0(14)障害者施設：0(15)訪問看護ステーション：6(16)居宅支援事業所：2(17)在宅介護老人支援センター：0(18)歯科診療所：0(19)その他：6 無回答：0

Q2. あなたは次のどれにあたりますか？（ひとつだけ）

(1)医師：2(2)看護師：20(3)准看護師：5(4)訪問看護師・准看護師：0(5)介護福祉士：0(6)作業療法士：0(7)理学療法士：0(8)社会福祉士：0(9)臨床心理士：0(10)言語聴覚士：1(11)介護支援専門員：2(12)訪問介護員（ホームヘルパー）：0(13)薬剤師：1(14)管理栄養士：18(15)栄養士：3(16)歯科医師：0(17)歯科衛生士：0(18)その他：3 無回答：0

〔医師以外の参加者に対して N=53〕

Q3. あなたは、現在、胃ろうの患者様の看護・介護を行っていますか？（ひとつだけ）

(1)行っている：42 (2)現在は行っていないが、以前は行ったことがある：1  
(3)行っていない：4 無回答：3

N=42

Q4. 胃ろうの看護・介護を行うようになってから何年位になりますか？（ひとつだけ）

(1)半年位：3(2)～1年位：2(3)～3年位：9(4)～5年位：6(5)5年以上～：22 無回答：0

〔医師に対して N=2〕

Q5. 先生のご担当診療科目は？（いくつでも）

(1)外科：0(2)内科：1(3)内視鏡科：0(4)その他：1(麻酔科) 無回答：0

Q6. 先生が胃ろうの施行を行うようになったのは何年位前からですか？（ひとつだけ）

(1)～2,3年位前：0(2)～5年位前：0(3)～10年位前：1(4)10年以上前～：1(5)胃ろうの施行は行っていない：0 無回答：0

Q7. 胃ろうを施行した患者様の原疾患は何でしたか？（いくつでも）

(1)脳血管障害：1(2)認知症：1(3)神経疾患：1(4)呼吸器疾患：1(5)外傷：0(6)癌：0(7)その他：0(8)胃ろうの施行は行っていない：1 無回答：0

Q8. 腹腔内誤挿入を経験したことがありますか？（ひとつだけ）

(1)ある：0(2)ない：1(3)胃ろうの施行は行っていない：1 無回答：0

Q9. 貴院では、一年間に、胃ろうの施行を何件行っていますか？（ひとつだけ）

(1)～10件以下：0(2)～20件：0(3)～30件：0(4)～40件：0(5)～50件：0(6)51件以上～：2(7)胃ろうの施行は行っていない：0 無回答：0

〔以下、全員に対して N=55〕

Q10. 訪問看護・介護を含めて、御施設には胃ろうの患者様は何人いらっしゃいますか？（ひとつだけ）

(1)～5人：11(2)～10人：10(3)～20人：15(4)～30人：10(5)～50人：1(6)～100人：0(7)101人以上～：0(8)胃ろうの患者様はいるが人数は分からない：5(9)胃ろうの患者様はいない：0 無回答：2

Q11. 御施設では、胃ろうの造設・管理を行っていますか？（ひとつだけ）

(1)造設・管理を行っている：19 (2)看護・介護のみ行っている：28  
(3)いずれも行っていない：1(4)該当しない：2 無回答：5

〔N=19〕

Q12. 御施設では、胃ろうの造設にあたって、患者さまご本人やご家族へのインフォームドコンセントが十分に行われていると思いますか？

(Q12のつづき)

(1)十分行われている:9(2)まあ行われている:6(3)十分行われていない:0(4)胃ろうの造設は行っていない:0  
無回答:4

Q13. 御施設では、胃ろうの訪問診療・在宅交換を行っていますか？(いくつでも)

(1)訪問診療を行っている:7(2)在宅交換を行っている:2(3)いずれも行っていない:8 無回答:4

[N=55]

Q14. 御施設は、胃ろうの導入・施行に積極的ですか？(ひとつだけ)

(1)積極的:6(2)どちらかといえば積極的:20(3)あまり積極的でない:14(4)胃ろうの導入・施行はまだ行っていない:2 無回答:7

Q15. 御施設は、胃ろうの造設後に積極的なリハビリを行うなど早期退院・退所に心掛けていますか？(ひとつだけ)

(1)積極的:3(2)どちらかといえば積極的:14(3)あまり積極的でない:20(4)胃ろうの患者はいない:1 無回答:17

Q16. 胃ろうの管理・看護・介護の中で、対策に困っている・悩んでいるものがありますか？(いくつでも)

(1)自己(事故)抜去:10(2)肺炎:21(3)嘔吐:12(4)下痢:19(5)便秘:12(6)栄養剤の漏れによる皮膚炎:17(7)不良肉芽:11(8)創部感染:6(9)チューブの交換法・交換時期:1(10)チューブ内腔の汚染:11(11)消毒法:6(12)栄養管理法:12(13)トラブル時の相談先がない:2(14)その他:4(15)特にない:4(16)胃ろうの管理・看護・介護はしていない:0 無回答:5

Q17. 胃ろうをもっと理解していくためには、どのようなことが解決されなければならないと思いますか。次の中から3つだけ挙げてください。(3つだけ)

- |   |               |
|---|---------------|
| ① 胃ろうについての勉強会の充実。(胃ろうの栄養・嚥下についての知識の向上、NSTや在宅管理についての勉強会など)   | 31<br>56.4%   |
| ② 食べられなくなれば即胃ろうというのではなく、胃ろう本来の「役割」をいま一度考え直してみることに。          | 31<br>56.4%   |
| ③ 造設、管理、看護、介護の全般にわたる院内連携や地域連携の確立。                           | 19<br>34.5%   |
| ④ 一般の人々や病院関係者に正しい理解を持ってもらうためのPR活動の充実                        | 18<br>32.7%   |
| ⑤ 胃ろうの手技・管理の標準化。(手技の安全かつ確実な施行、合併症の発生予防、発生後の対処方法、術後ケアなどの標準化) | 13<br>23.6%   |
| ⑥ 胃ろうの適応、危険度を示す疾患・状態別のガイドラインの作成。                            | 12<br>21.8%   |
| ⑦ 専門医や専門看護者の育成。(造設医の資格化、トラブルに対応できる専門機関の設立、コメディカルの育成など)      | 9<br>16.4%    |
|   | 無回答 3<br>5.5% |

Q18. きょうのセミナーは参考になりましたか？(ひとつだけ)

(1)非常に参考になった:30(2)参考になった:23(3)参考にならなかった:0 無回答:2

Q19. 今後のセミナーのテーマでは何を希望しますか？(いくつでも)

(1)胃ろうと嚥下:21(2)胃ろうと栄養アセスメント:26(3)胃ろうとスキンケア:11(4)胃ろうと在宅医療:15(5)胃ろうとNST:12(6)胃ろうとクリティカルパス:2(7)胃ろうと地域連携:12(8)胃ろうとEBM(根拠に基づく医療):5(9)その他:1 無回答:6

Q20. 造設後の連携はうまくいっていると感じますか？(ひとつだけ)

(1)うまくいっている:9(2)他の医療機関の協力があってうまくいっている:23(3)相談できず困っている:4(4)その他:4 無回答:15

Q20. 所属先の所在地は？

県 市・郡

Q21. 胃ろうの理解やPDNセミナーについて、どのようなことでも結構です。忌憚のないご意見をお聞かせください？